

一言一日

新緑の間から差し込む陽光。鳥がさえずり、木々の芳香が鼻をくすぐる。青空には一直線の飛行機雲。歩を進めるにつれ、近づくさざ

波の音が心地良い▲丸亀市沖に浮かぶ小さな有人島・手島。「てしま」と言えば、土庄町の豊島が思い浮かぶかもしれないが、手島も塩飽諸島の一つとして、長い歴史を紡いできた▲市によると、手島の人口は18人（5月1日現在）。65歳以上人口の割合を示す高齢化率は96・1%で、市内五つの有人島で最も高い。記録が残る1960年の国勢調査では553人が暮らしていたが、現在は少子高齢化・過疎化が著しい▲2014年に示された政府系の調査によると、30年に高齢化率は約30%となり、40年までに243の自治体が消滅する可能性があるという。20〜30代の女性が30年間で半分以上に減り、消滅する可能性のある自治体が896市区町村に上るとの日本創成会議の分科会が発表した衝撃的な試算も記憶に残る▲島しょ部は人口減少社会の縮図でもある。手島を離れて丸亀市内に住む男性が「島に住みたいが、仕事がない」と語った言葉が現実を物語っている▲同市のNPO「四国夢中人」や京大生らが手島の再生や地域振興に向け、農産物を用いた商品開発、空き家や休耕地の有効活用などを検討している。現在、進めているのは花と昆虫の楽園づくり。夏には島民手作りのヒマワリ畑がお目見えする。美しい里海は人の営みがあったこそ。失いたくない「宝島」だ。(X)